



昨年から連続して萩往還をご案内している二組のグループがある。一組はご婦人方を中心とした山登りの会であるKM会の皆さんで、すでに5回歩いている。もう一つは同じ職場のOBの方たちのAI会の皆さんで、3回歩いた。参加人数はKM会の皆さんが6~9名、AI会の皆さんは9~12名である。2グループとも山口から萩方面へのウォークがほぼ終わり、これからは三田尻(防府)へと向かうことになる。雨が降ればウォークは潔く中止という点では共通しているが、KM会は基本的に活動時間を1回当たり3時間以下、歩く距離は短いほどウェルカム、その分回数が増えても一向に構わない、という今まであまり経験したことのないガイド形式のグループである。おそらく、全コースが終了するには、あと5回、合計10回くらいにはなるのではないかと予想している。その点、一方のAI会は6回で全コース踏破の予定だから、ごく標準的な歩行距離と回数になる。

これまで山口市内ガイドも含めてガイド歴は135回となった。萩往還に限ると丁度100回である。その中でも、この2グループのように毎回ご指名いただいて私一人でガイドするという経験は初めてである。しかし、回数を重ねれば気心も知れて来るし、単に萩往還の話だけでなく色々な話ができるのはとても良い。ガイドの私自身も楽しんでいる。KM会では次回で萩に到達するので、私の英語の先生が経営されている萩城下の素敵なレストランで昼食を摂ることにしている。ここは元網元の家を改装されたもので、庭も広くて立派である上に、夜には先生の趣味でアイリッシュパブもオープンする。本当はこちらがお勧めなのだが、ガイドとの絡みでは一寸難しいのが残念。AI会の方は私の地元の大内地区を歩く。このエリアは江戸期よりも室町期の大内氏の史跡が多く残っているので、萩往還ガイドというよりも大内氏の歴史を中心に語りながら歩こうと思っている。回数を重ねるとそういうガイドができるのが、また楽しい。(2020.3.25 記)

イラストでたどる萩往還 12

落合付近



文・イラスト=古谷眞之助



萩往還第二の峠、中ノ峠を越える道は谷合に開けた田圃の脇を下って行く。小春日和の日にはこをのんびり歩くのもなかなか良い。中ノ峠は、かつて明木村と佐々並村を分かつ峠だった。昭和30年に合併して旭村となっても、萩市と合併するまで、村役場は2年毎に明木と佐々並を行き来したというから面白い。

萩往還の側には立派な木柵が作られているが、もちろん復元整備時に新設されたものである。気持ちの良い場所なのだが、この付近の田圃はどうやら圃場整備されたようで、おそらく萩往還のかつての位置は現在とは違った所を走っていたと推測する。しかし、整備が見事過ぎて、往時を偲ぶものが一切ないのが残念。